

～「いい一日」から充実した人生がはじまる～

神奈川県横浜市
就労継続支援B型事業所
カフェベーカリーぷかぷか
マネージャー 富永 岳

1 はじめに

「今日はいい一日でしたか？」

障がいのある・なしに関わらず、毎日、自信を持って「はい」と答えられる人はどれだけいるでしょうか。

「カフェベーカリーぷかぷか」では、この質問を毎日、帰りの会で利用者さん及びスタッフに聞いています。

「今日は（まかない給食の）大根を切ったら美味しいと言われた」

「パンが完売して嬉しかった」

「(お客さんの) 赤ちゃんと話した」

利用者さんからは、毎日さまざまな感想が聞かれます。そして、仕事のことを振り返りながら話している姿は、皆それぞれ、とても生き生きしています。これも、その日その日で、ひとつの仕事を任せられ、その仕事をやり終えた充実感からきているのでしょう。

2 事例の紹介

ぷかぷかでは、国産小麦・天然酵母のパンの製造・販売、カフェの運営をしています。利用者さんに仕事の楽しさや嬉しさ、やりがいを感じてもらうために、以下のような工夫をしています。

- ① 仕事の最終結果を見せる
- ② 単純作業ではなく、創意工夫が必要な仕事を与える

<仕事の最終結果を見せる>

パンの製造に関わっている人には、なるべく店頭の販売や外販（区役所などの外部販売）に参加してもらうようにしています。そうすると、自分が作ったパンが目の前で売れていくのを見ることができます。お客様にはリピーターの方も多いため、「このパンおいしいのよね〜」「あ、これ新作？」などと会話しながら、にこやかに買っていかれるのを見ると、売り子になっている利用者さんも、皆笑顔です。そんなこともあり、利用者さんにとって、外販に行けるかどうかというのは最大の関心事と言っても過言ではないようで、シフト表を見る目は真剣そのものです。

カフェもオープンキッチンになっていて、厨房で料理をしても、食べているお客様の様子が伝わります。「美味しい！」という声が聞こえたり、パンやコーヒーのお替りを求められたりすると（手作りパンとコーヒーはお替り自由なのです）、野菜を切っている目も、より真剣になりま

す。

仕事の全体像が見えるように、また、一つの仕事でマンネリ化しないように、様子を見ながら持ち場を交替しています。そのことにより、今自分がしている仕事は何のための仕事なのかということが、実感として理解できるようになります。そして、その仕事が給料として自分に返ってくるということが見えてくると、さらに、任された仕事に対する意欲が上がります。

<創意工夫が求められる状況をつくる>

利用者さんには仕事を任せていますから、皆、責任感をもって仕事をしています。その中で、自分の得意なこと、好きなことを見つけ、力を存分に発揮する者が出てきます。

例えば、クッキーの製造工程を管理し、教育、新たな商品開発も手掛ける「クッキー工場長」や、絶妙なタイミングで釜からパンを引き上げる「釜職人」、なぜか買う人も売る人も幸せな気持ちになってしまう「おすすめ上手な売り子さん」などなど、各工程を主に任されている匠も生まれ、パンや料理の品質を担っています。

その仕事の主ですから自ら先を読み、行動しないと仕事が完結しません。つまり受け身のままでは仕事はできないのです。

誰もが最初うまくできません。失敗してもいい。そんな土壌がふかふかにはあります。失敗しないためには、もっと良くするためには、どうすれば良いのかを考え、試行錯誤しようという気持ちが生まれることが重要なのです。

「料理はいろいろ考えなきゃいけないから面白い」とは、主にカフェの厨房で働くRさんの言葉です。彼は、以前、マスクの検品やクリーニング関係の仕事をしていました。どちらも作業は簡単なのですぐに覚えられ、給料も良かったそうですが、仕事は面白くなかったと言います。仕事の最終的な結果が見えなかったこと、決められた作業をこなすだけで創意工夫が必要なかったことが原因ではないでしょうか。

色々考えるということは、大変なことです。真剣に取り組まなければいけません。しかし、真剣に取り組んだことは、好きになります。好きな仕事は、やっていて楽しいし、そこからさらなる仕事生まれます。

先ほど例に挙げた「クッキー工場長」のEさん。以前は好きな手芸ができる作業所で働いていましたが、気持ちはいつも暗く、楽しくなかったそうです。好きなことをしているのに何故なのか。少し掘り下げて話を聞いてみると、仕様がきまっているので、あまり頭を使わなくてもでき、そこに自分らしさを出す余地はなかったようなのです。

ふかふかで出会ったクッキー作り。はじめは作業所とは違うペースで手を動かさなくてはならず、本当に大変だったようです。しかし、自分の作ったものが売れることに喜びを感じ、どんどん仕事に夢中になり、今ではクッキー作りのほぼ全行程を任せることができます。さらに、新作の検討も行いうまでになりました。そんな彼女の将来の夢は、クッキー屋さんです。どんなクッキーを出そうか、思いついたアイデアをメモしておく「デザインノート」というものを作っているのだと嬉しそうに話してくれました。夢を持ち、それが今を生きる原動力になっているということに、正直なところ驚きましたが、素直に応援したい気持ちになりました。

仕事はその人の人生に大きく関わることなのです。「仕事」を任されると仕事は面白くなるのです。毎月半数以上が皆勤賞を取り、欠勤率が非常に低いことも、これを証明してくれています。

3 考察

障がいを持つ人に「仕事」を任せるということは、言葉で言うほど簡単なことではないと思います。ふかふかでも、失敗することもあります。スタッフとして反省させられる事件も起きます。それでも、一つの仕事に責任を持って取り組んでもらうことを大切にしています。受け身ではいられなくなり、次に何をしなければならないか、指示される前に自分で考えていく力が付いてきます。そして自分のやった「仕事」の結果として、お客様の笑顔であったり、スタッフの励ましであったり…それが見えてくることで、より仕事が楽しくなります。新たな挑戦意欲も湧きます。

その前向きな力は、仕事だけでなく普段の生活にも反映されることは、利用者さんの様子を見ても明らかです。その力が、最終的に自立へとつながっていく力なのだと思います。

4 おわりに

人は皆、潜在的に他の人に必要とされたいと思っている生き物です。必要とされると喜びを感じ頑張れるのです。他の誰かでもできる仕事より、自分らしさが発揮でき、自分が誰かに必要とされていることを実感して働く方が、楽しいし、より力を発揮しようと創意工夫が始まると考えます。

ふかふかではそういう職場を提供していきたいと思っています。

その結果、利用者さんもスタッフも“いい一日”を過ごせ、気付けば充実した人生の礎となっていることでしょう。